

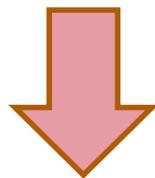
保育実習の効果的な実践に向けて —2年制保育士養成の視点から—

現代保育研究所研修会 2015(平成27)年11月28日

聖和短期大学 森 知子

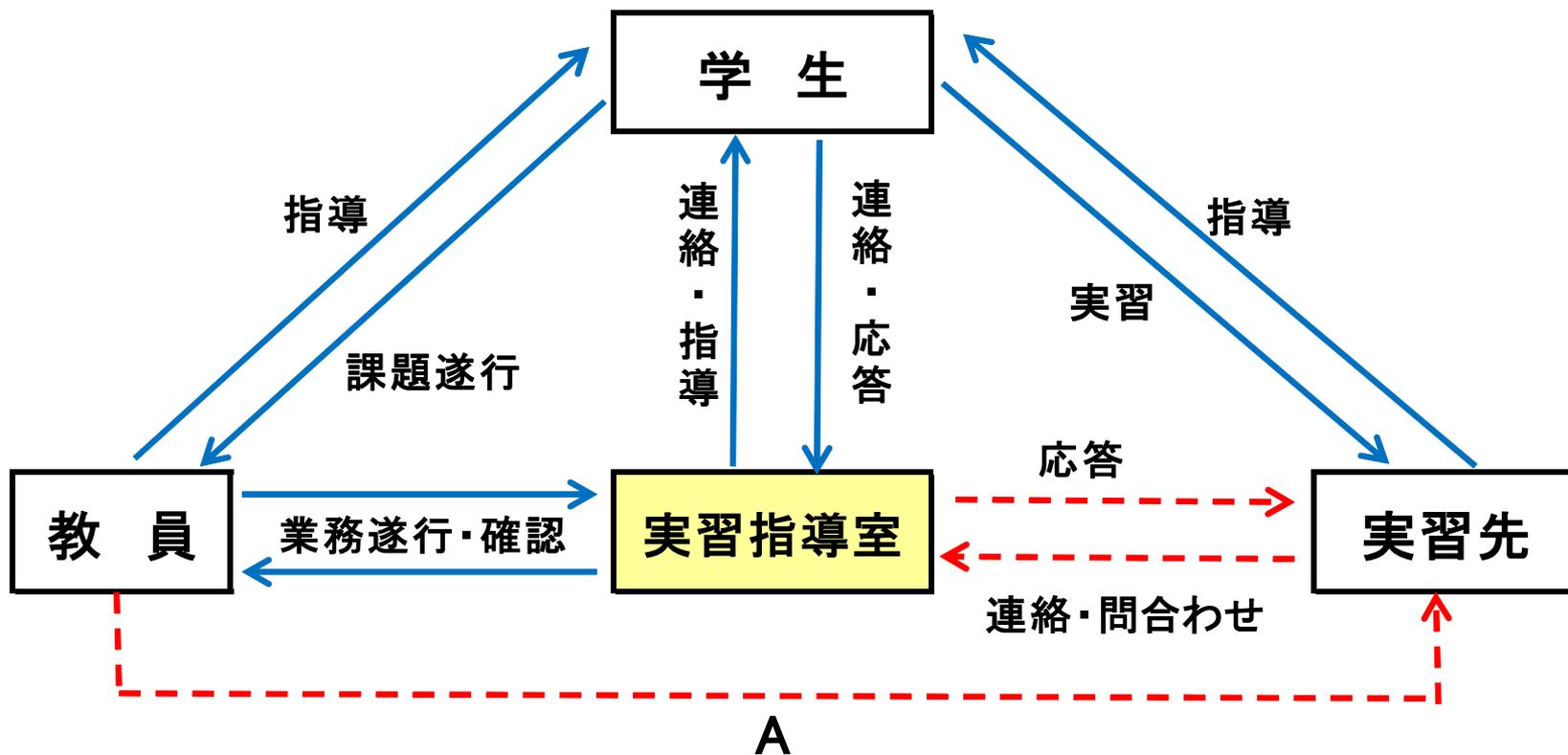
1. はじめに

保育実習の効果的な実践に向けて必要なこと



『学生のために体系化された実習指導体制』

実習システム



図： 実習システムの体系

—— 学内的な内容に関するもの
 - - - 対外的な内容に関するもの

(森・井柳 2004 保育者養成における実習指導の充実を目指して 聖和大学論集,32A,pp113-122)

※組織の変更により、「実習指導室」は、現在「実習支援室」に名称を変更し業務を行う。

実習実務の内容

(1) 教員との連携及び学生指導に関するもの

実習記録・課題等提出物の受付、授業欠席に伴う届出(書面)の受付、実習中の学生からの緊急電話対応(特記事項の作成)、実習先資料の充実、実習成績評価表の保管等

(2) 教学的作業に関するもの

事前事後指導の授業に関する資料の準備(実習要項の作成、実習先への持参書類の準備等)、実習科目担当者会への出席等

(3) 実習先との対外的な連絡に関するもの

対外的な連絡文書の作成と発信及び受信、実習に関する実習先からの連絡受付、実習先への問い合わせ等

2. 保育実習における学生の学びの現状

(1) 実習シラバスから考える

(局長通知 雇児発0808第2号)

保育実習Ⅰ 学習内容

<保育所実習の内容>

1. 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所の生活と一日の流れ
 - (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開
2. 子ども理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもへの援助やかかわり
3. 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
 - (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
 - (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画、観察、記録
 - (1) 保育課程と指導計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

保育実習Ⅱ 学習内容

<内容>

1. 保育所の役割や機能の具体的展開
 - (1) 養護と教育が一体となって行われる保育
 - (2) 保育所の社会的役割と責任
2. 観察に基づく保育理解
 - (1) 子どもの心身の状態や活動の観察
 - (2) 保育士等の動きや実践の観察
 - (3) 保育所の生活の流れや展開の把握
3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
 - (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解
 - (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援
 - (3) 地域社会との連携
4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価
 - (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
 - (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価
5. 保育士の業務と職業倫理
 - (1) 多様な保育の展開と保育士の業務
 - (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理
6. 自己の課題の明確化

2. 保育実習における学生の学びの現状

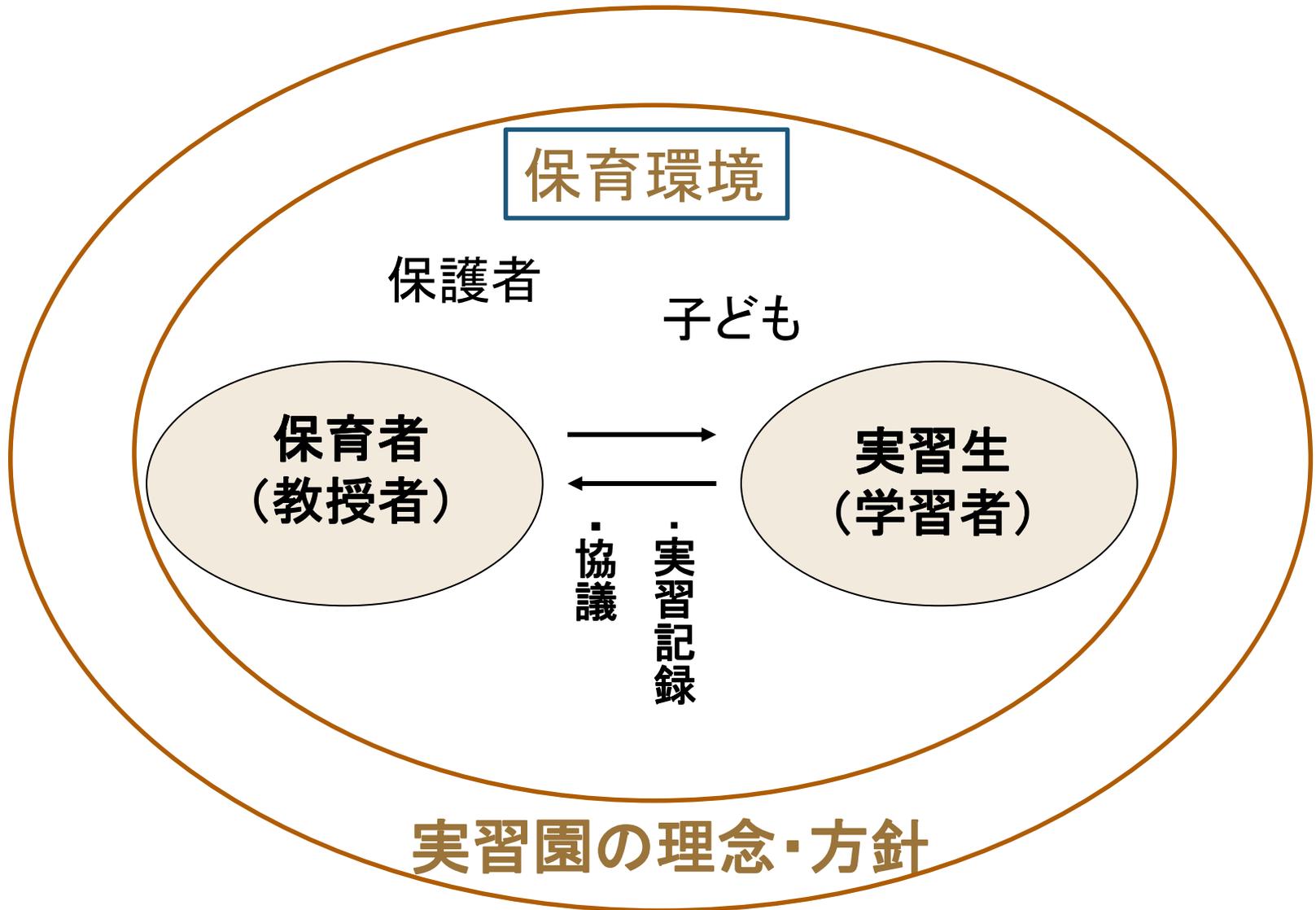
(2) 実習生の学習環境と学習行動の特徴

保育士養成における実習の現状

- * 学生の専門的成長への寄与・教育的意義
- * 複雑多様な保育の展開
- * 実習生(学習者)・・・学習者主体の作業
- * 保育者(教授者)・・・多様な保育場面への対応
個々の学生との教育的関わり



高度な学習環境



保育実習における学習環境

(森知子,2014「保育者養成実習における学習環境の特性 - 保育者 - 実習生関係を考える」 聖和論集第42号)

実習生の自己効力感と実習評価の関連

(森知子 2003 保育者を志す学生の自己効力感と実習評価の関連－保育者養成校における実習教育プログラムをとおして－ 臨床教育心理学研究Vol.29, No.1, pp31-41)

自己効力の高い学生

失敗に対する不安が低く、何か仕事をするときには自信を持って行い、行動が積極的な学生



実習評価点が安定的に高かった。

ただし、自分の能力を高く評価する傾向がある学生は、そうでない学生よりも実習評価点が低かった。

実習においては、高い能力認知は望ましい結果を導くとは限らない

実習特有の学習環境

謙虚に学ぶ姿勢

● 実習生の学習行動の特徴 —実習の振り返りから—

(森知子 2010 保育者養成実習における教授—学習過程の特徴—実習生の学習行動を構成する要素について— 聖和論集第38号 pp.55-64)

* 自己評価の高い実習生

⇒ **子どもとの関わりの視点を中心に**学習行動を振り返る傾向

* 自己評価の低い実習生

⇒ **指導者との関わりの視点を中心に**学習行動を振り返る傾向

高等教育の視点を反映する評価のあり方

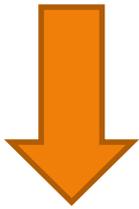


他者評価とともに自己評価を効果的に取り入れることが求められる。

- 「教えるということ」「わかるということ」

藤岡完治著「学生とともに創る臨床実習指導ワークブック」

医学書院2007



教師が示そうとしていることの意味を
学生がつかもうとして努力する知的協力によって
可能になる。

「知る」ということは、「教師と学生の協働作業」である。

3. 2年間の実習カリキュラムの基礎となるもの 観察を主軸とした実習教育

【教育保育参観実習】

本科目は、実習の最初の段階として位置づけられる。

幼稚園・保育所において、保育の実際を参観することによって、子ども理解、保育環境や保育者の援助のあり方などについての基礎を体験的に学ぶことを目的とする。また保育者となるための自覚や基本的態度を身につけることができるようにする。

実習は、毎回テーマに沿って行う。

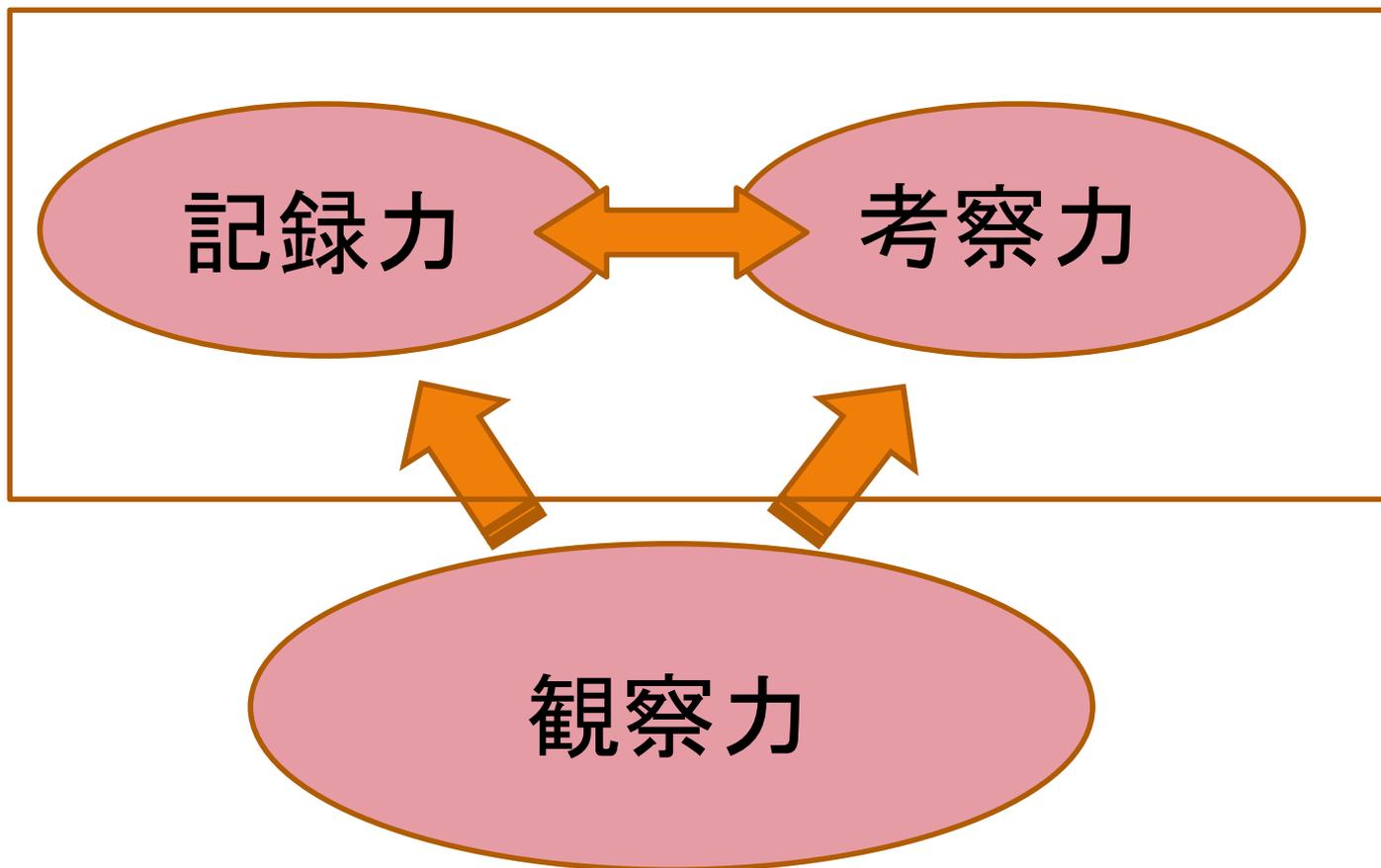
(聖和短期大学 教育保育参観実習シラバスより)

観察力

記録力

考察力

2年制の保育士養成で目指すもの



実習記録

教育保育参観実習の取組み

実習記録を媒体とした教育活動

- 正しい書き言葉で、正しく伝わるように書く。
- 保育者を目指すにあたって、自分に生かすことのできる実習記録を作成する。
- 観察した多くの場面から、何を記録すべきか、書き残しておきたい出来事を選択する。
- 観察した事実を正確に(客観的に)記録する。
⇒書くべきことを決めたら、誰が読んでもその場面が思い浮かぶように、分かりやすく書く。

実習記録を媒体とした教育活動

- ・表面的な子どもの活動や保育者の援助のあり方だけでなく、子どもの活動の意味や保育者の援助の意図(願い)を読み取ることが大切な視点となる。
- ・一つの場面を深く掘り下げ、考え、学びにつなげていくことができる学生と、表面的な事象の感想だけにとどまる学生がおり、指導の難しさが存在するが、そこに**保育者の教授が加わる**ことでさらに学生の理解が深まる。
- ・一つ一つの保育場面から繰り出される保育の意味を、**学生と共に考え**、その場面における子どもの思いや保育者の援助の意図を考察できるよう、学生を導くことが必要である。

⇒養成校の教員の役割

子どもを主体とした保育のあり方を考える

*「させる」「指導する」「指示する」といった援助はあまりみられない。



実習記録の書き方をおして、徹底的に学ぶ。

* 記録を作成する行為をおして、保育者の援助の内容を的確に表現する言葉の使い方を学んでいく。

* 保育者の行う援助は子どもにとってどのような意味があるのか。保育者は子どもに何を育てたいと思っているのか。保育者の願いは何か。

……保育者の援助の意図を絶えず考えながら記録を作成する。

実習記録を作成する

- ・実習記録=学習活動の記録
自らの「保育観」を育てる作業でもある。

保育においては「振り返ること」が重要な行為となる。
自分で振り返るよりも、そこに他者の視点が存在すれば、
自らの気付き得なかった事柄を知ることができる。

北野幸子他編著 2009「遊び・生活・学びを培う教育保育の方法と技術」北大路書房 p.24

おわりに. 実習における学生の育ち

- ・子どもや保育者、子どもの保護者など、保育の場での人との関わりを通して自己の価値観を見つめなおす。
- ・実習園の保育方針を理解し、その園の価値観の中で自己の行動を絶えず振り返る姿勢が必要となる。
- ・保育理念、保育方針の中に身を置き、その価値観の中で、自分にできること、自分をどう生かしていくのか、という姿勢が問われる。

個の自立

自己教育(自分の目標に積極的に取り組み、自分の行動が変容できるという将来的展望をもつ)